

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 受託開始日 2026年4月10日(金) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード (旧項目コード)	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
OOM66 6 (OM66 0)	腸管出血性大腸菌 JLAC10コードなし	適量	VS1 (k)	冷蔵	3~6	(注)	培養同定 ・大腸菌 血清型別	—	裏面参照
OX445 4 (X445 1)	便検診3菌種-5 JLAC10コードなし	適量	VS1 (k)	冷蔵	4~6	—	培養同定 ・大腸菌 血清型別	—	凍 裏面参照
OX446 3 (X446 8)	便検診4菌種-7 JLAC10コードなし	適量	VS1 (k)	冷蔵	4~6	—	培養同定 ・大腸菌 血清型別	—	凍 裏面参照

(注) 175点 ※6

「大腸菌血清型別」は、「細菌培養同定検査」により大腸菌が確認され、及び「大腸菌ベロトキシン定性」により毒素が確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において「細菌培養同定検査」の費用は別に算定できない。

※6 免疫学的検査判断料



● 腸管出血性大腸菌（目的菌）、便検診3菌種-5、便検診4菌種-7

腸管出血性大腸菌を効率よく検出可能な検査です。

腸管出血性大腸炎（EHEC）は、腸管出血性大腸菌が産生する病原因子のベロトキシン（志賀毒素群毒素）により、激しい腹痛、水様性の下痢、血便を特徴とした症状を引き起こします。検出される腸管出血性大腸菌は血清型O157の他に、O26やO111等が検出されることが知られています。

本項目の腸管出血性大腸菌（目的菌）は、一般細菌の培養同定検査に追加して行う“目的菌”検査です。これまでの下痢原性大腸菌（目的菌）の検査では、検出されたすべての大腸菌に対して大腸菌血清型別の検査しておりますが、本項目では、まずO157以外の血清群でも発育する腸管出血性大腸菌用の選択培地でスクリーニングした後、選択培地に発育した菌のみ大腸菌血清型別の検査をおこないます。効率よく血清型O157以外の検査結果を得ることができ、治療方針を考える際の参考として役立ちます。

また、便検診3菌種-5と便検診4菌種-7は腸管出血性大腸菌の検査を含む検便検査です。特に病院内、施設内職員など健康保菌者の衛生管理に有用です。

▼疾患との関連

▼関連する主な検査項目

腸管出血性大腸炎（EHEC）

培養同定（消化管）、下痢原性大腸菌（目的菌）

▼検査要項

検査項目名	腸管出血性大腸菌*	便検診3菌種-5	便検診4菌種-7
項目コード (旧項目コード)	O0M66 6 (OM66 0)	O6230 9 (6230 5)	OX446 3 (X446 8)
検体量	適量		
容器	VS1 (k)		
保存方法	冷蔵保存してください。		
所要日数	3~6日	4~6日	
検査方法	培養同定、大腸菌血清型別		
検査実施料	(注)	—	
判断料	(注)	—	
備考	<p>● 腸管出血性大腸菌は、必ず培養同定（消化管）と大腸菌ベロトキシンを同時にご依頼ください。(注) チェックがない場合は検査を実施いたしませんのでご注意ください。</p> <p>● ※の目的菌費用については培養同定に含みます。</p>	<p>凍 凍結保存は避けてください。 病院内、施設内職員(健常者)のスクリーニング検査としてご依頼ください。 対象菌種については下記便検診対象一覧をご参照ください。</p>	

- ・腸管出血性大腸菌についても、**凍** 凍結保存は避けてください。
- ・腸管出血性大腸菌にO157、O26、O111等を含みます。

便検診対象一覧

検査項目	対象菌種			
	赤痢	サルモネラ	腸管出血性大腸菌	腸炎ピブリオ
便検診3菌種-5	○	○	○	—
便検診4菌種-7	○	○	○	○

- 参考文献：該当文献はありません。